忠岡駅前活性化及び空店舗の利活用について

駅前を「通る場所」から「過ごす場所」へ

背景と意義

忠岡駅は、忠岡町内にある唯一の駅であり、多くの住民が日々利用する「まちの顔」です。しかし現在、駅前は単なる通過点となっており、人々が立ち止まり、過ごす場所としての機能が十分に発揮されていません。空店舗の存在や地域資源の未活用といった課題がある一方で、駅前の一等地という立地条件の空店舗は見方を変えれば、官民連携によるにぎわいづくりの可能性を大いに秘めているといえます。本協定は、イベントなどを通じて駅前の新たな役割を検証し、将来的な駅前再生への道筋を模索します。

イベントによる新たな可能性の検証

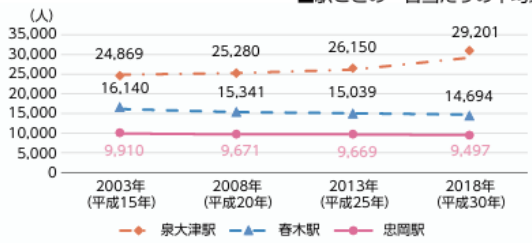
空店舗を活用した期間限定のイベントにより、駅前に人が集まる仕組みを実証します。カキ小屋や農産物の販売、チャレンジショップなど多様なコンテンツを展開し、駅前の新たな魅力を創出します。

忠岡駅前の現状

現状の整理

忠岡駅前は、日々多くの利用者が行き交う場所でありながら、いくつかの課題を抱えています。

■駅ごとの一日当たりの平均乗降者数推移



	2003年 (平成15年)	2008年 (平成20年)	2013年 (平成25年)	2018年 (平成30年)
泉大津駅	100%	102%	105%	117%
忠岡駅	100%	98%	98%	96%
春木駅	100%	95%	93%	91%

出典：大阪府統計年鑑「私鉄各駅別乗降人員」各年 12月

住まいの地区や駅周辺の環境（満足度）



空店舗

駅前に空店舗が存在し、まちの活気や魅力を低下させています。忠岡町民の97.4%が「駅周辺のにぎわい」への不満を持っています。

通過点

駅利用者の多くは、駅前を単なる通過点として利用しており、立ち止まったり、過ごしたりする行動が見られません。

滞在時間

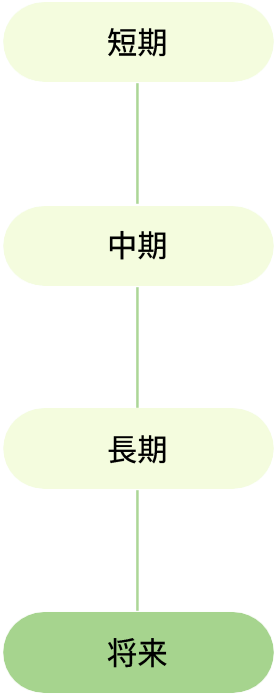
駅前での滞在時間が非常に短く、駅周辺の店舗や施設への立ち寄りが少ない状況です。回遊性の欠如が課題となっています。

発信不足

地域の豊富な資源や魅力を発信する場が不足しており、地域の良さが十分に伝わっていません。情報発信の拠点が必要です。

段階的な目的とゴール

本協定では、短期的な空店舗活用から始まり、段階的に人の集客、店舗誘致を経て、最終的に駅前全体の再生を目指します。



空店舗活用

駅前の空店舗を活用し、カキ小屋や農産物販売、チャレンジショップなどの実証実験を開始

人の集客

イベントや交流スペースを通じて駅前に人を集め、滞在時間を延ばし、賑わいを創出

店舗誘致

イベントの成果をもとに、新たな店舗や事業者を誘致し、持続可能な駅前商業を実現

駅前再生

駅前全体の再整備を行い、人が集い過ごしたくなる魅力的なまちの顔として再生

コンセプトとキーワード

官民連携

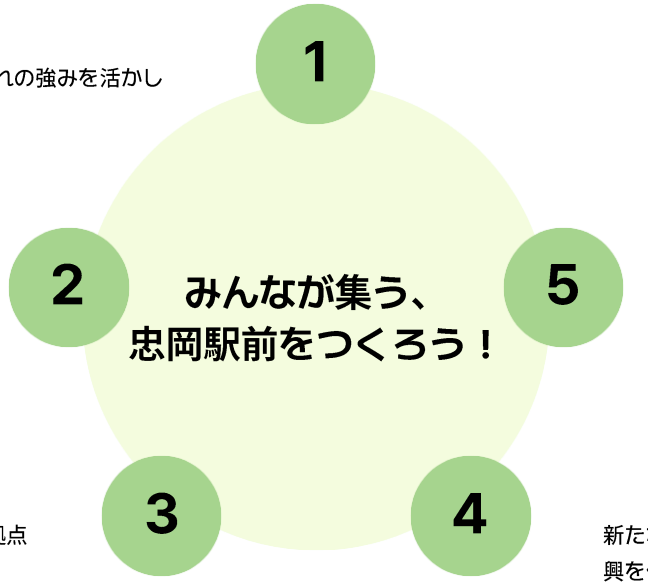
忠岡町、南海商事が協力し、それぞれの強みを活かした駅前活性化を推進

地産地消

忠岡の新鮮な農産物や海産物を駅前で販売し、地域の'おいしい'を発信

空店舗活用

駅前の空店舗を有効活用し、にぎわいを発信する拠点として再生



地域交流

駅利用者と地域住民、事業者が交流できる場を創出し、コミュニティを活性化

チャレンジ支援

新たな事業や商品に挑戦する事業者を支援し、産業振興を促す

効果検証方法

来場者
アンケート調査

・満足度、滞在時間、利用目的を調査
・改善点や要望を収集

事業者
ヒアリング

・出店者の売上等を聴取
・運営上の課題を把握
・継続意向を確認

売上データ
分析

・日別・時間帯別の売上推移
・商品別の販売実績
・客単価の分析

来場者数
分析

・カウンターによる計測
・曜日・時間帯別の傾向
・天候との相関分析

多角的なデータ収集と分析により、社会実験の成果と課題を明確化し、次の施策へ活かします。